2014年4月24日

原発事故時の避難計画などに関する質問・要請書

伊万里市長　塚部芳和様

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会代表　石丸初美

プルサーマルと佐賀県の１００年を考える会共同世話人　野中宏樹

　福島第一原発事故から３年になりますが、いまだ多くの人々が困難な避難生活を強いられています。原発事故の悲劇を二度と繰り返してはなりません。

しかし国は、再稼働と避難計画は「車の両輪」としながらも、法的にはリンクしないとして、避難計画の作成は自治体任せで、再稼働に向けて急ピッチで審査を進めています。

　佐賀県は玄海原発30キロ圏内の医療福祉施設の避難計画等を6月末までにまとめるとしていますが、私達は、形だけの避難計画で再稼働の準備ができたとされることを憂慮しています。伊万里市からの避難受け入れ先となる市町においても、たくさんの問題点を抱えていますが、玄海原発大事故が起きた時に、伊万里市民の安全な避難などできるのだろうかと案じています。　下記のとおり、質問と要請をいたします。

【質問事項】

１．伊万里市から何人がどこへ避難することになりますか。避難受け入れ市町との連絡・相談などは進んでいますか。

２．避難に何時間かかりますか。車の渋滞などはどのように考慮されていますか。

３．要援護者への配慮や福祉避難所等での受け入れは考慮されていますか。 要援護者の人数は把握していますか。

４．人と車両等へのスクリーニング・除染の方法などは決まっていますか。広い駐車場が必要となりますが、確保できていますか。

５．バスも利用されると思いますが、バス会社との連携は進んでいますか。

６．川が汚染された場合、安全な水の確保・配布方法などは決まっていますか。

７．避難計画では、原発事故と地震・津波などの複合災害は考慮されていますか。

８．避難期間はどれくらいを想定されていますか。受け入れ市町の地元住民には周知されていますか。

９．九電の重大事故シナリオでは、事故発生から約２０分で炉心溶融開始。事故から約９０分でメルトスルーとなっています。 国の指針では、５㎞圏内では「炉心溶融」前に避難することになっています。３０㎞圏内では「500μSv/時」になって初めて避難の開始となっています。これで住民の安全が確保できますか。

１０．玄海原発で事故が起こった場合、プルームの到達は何時間後ですか。プルーム対策として、安定ヨウ素剤の備蓄や配布方法などは検討されていますか。

１１．避難計画と実際の避難にかかるコストはどのぐらいでしょうか。

【要請事項】

１．形だけの避難計画が完成したということのないよう、避難計画の困難点などについて、県に意見を伝え、計画に明記するよう求めてください。

２．「500μSv/時」というとてつもない被曝基準に住民として納得できません。国や県に対して「この基準は市民に被曝を強いるものだ」と撤回を求めてください。

３．避難計画では住民の安全を守ることはできないと表明してください。玄海原発の再稼働に反対してください。